

第 11 回国家生命倫理委員会グローバル・サミット
 11th Global Summit of National Bioethics Committees
 16-18 March 2016, Berlin/Germany
 “ Global Health, Global Ethics, Global Justice”

2016 年 6 月 1 日
 生命倫理専門調査会専門委員
 阿久津英憲

1. 開催

2016 年 3 月 16 日～18 日 ベルリン（ドイツ）
 Berlin Brandenburg Academy of Sciences and Humanities

主催：ドイツ倫理委員会（The German Ethics Council）主催：
 （Dr. Christiane Woopen）
 （常設事務局：世界保健機関）

参考 1 位田隆一先生資料（資料 4；H22 年 12 月 15 日第 62 回生命倫理専門調査会）

これまでのNBABの経緯

1996 サンフランシスコ（18）
 多様性認識、共通課題と対話の必要

1998 東京（30）
 NBABの継続、東京コミュニケ

2000 ロンドン（36）
 欧州諸国の多数参加、サミット規則、

2002 ブラジリア（27）
 幹細胞の倫理と政策、ヒト試料、PGx、DNA特許、メディア、バンク、ブラジリアコミュニケ

2004 キャンベラ（36）
 国別報告、生命倫理の諸問題

2006 北京（18）
 Neuroethics、心理分析・操作の倫理、危機倫理、個人保健情報、NBABサミットの意義（情報交換・協力）

2008 パリ（33）
 文化多様性と倫理、臓器・組織移植、電子カルテ、倫理委員会と公共政策、NBAB情報交換の恒常化と組織化、各国委員会の問題の多様性

↓

2010 シンガポール

参加国数

2014年 メキシコシティ (メキシコ): 57 カ国

2016年 ベルリン (ドイツ): 99 カ国

2. サミット会議内容 (プログラム)

運営委員会 (Steering Committee)

*ホームページに会議の動画および発表資料がアップロードされています。

<https://www.globalsummit-berlin2016.de/>

第1日目

・開会セッション

ヨアヒム・ガウク (Joachim Gauck) ドイツ連邦大統領スピーチ

主催者代表 (Dr. Christiane Woopen) WHO 代表挨拶

・第10会期 (メキシコ) 主催者代表 Manuel H Ruiz de Chávez による前会期の報告

・常設事務局 WHO (Dr. Abha Saxena (WHO)) からの報告

Stream 1: Global Cross Border Issues

Topic I: Emerging and converging technologies, including Big data, nanotechnology, gene editing, cognitive enhancement, etc.

Topic II: Epidemics and outbreaks: global solidarity and obligations to health care workers

Stream 2: Global Common Issues to all Countries

Topic I: Bioethical policies and bioethical law, and the relationship between them

Topic II: Raising social awareness of bioethical issues including education, media and communications

1) セッション1: Emerging and Converging Technologies

(座長: Rinie van Est (オランダ)) 討議用ペーパーを元に議論

Rinie van Est (オランダ)

・ "Digitalization of human" ("Profiling human"が進んでいる。デジタル化、ビッグデータ、インターネット等)

・ germ line editing (GLED)

Ehsan Shamsi Gooshki (イラン)

- ・先端医療・科学を応用するのに、もっと特化したガイドラインが必要。

Barry Smith (New Zealand)

- ・GLED に関し、まだ技術的に未熟だが、応用技術は簡易であり、生殖応用等の問題。"Think globally, act locally"

2) セッション 2 : Epidemics and Outbreaks

(座長 : Dr. Aissatou Touré (セネガル)) 各国からの報告

- ・ Sangeun Park (韓国)

中東呼吸器症候群 (MERS) パンデミック (韓国)

- ・ Abdulaziz AlSwaiem (サウジアラビア)

中東呼吸器症候群 (MERS) の診断のため患者試料が第三国へ持ち出され勝手に塩基配列が特許申請。ワクチン等医療が遅れる懸念。

3) 各国際組織からのレポート

Reports of international organizations

- ・ Abha Saxena (WHO): international concern-Ebola, Zika

- ・ Dafna Feinholz Klip (UNESCO): gene editing について

- ・ Isidoros Karatzas (the European Commission): The European Group on Ethics in Science and New Technologies

- ・ Laurence Lwoff (the Council of Europe): gene editing について

- ・ Johannes van Delden (the Council for international organizations of medical science CIOMS)

4) Marketplace (2回)

日本 (阿久津) からポスター発表

“ A Review of the Current Perspectives on the Prohibition of Embryo Creation Using Induced Germ Cells”

「ヒトの幹細胞から作成される生殖細胞を用いるヒト胚の作成について」(中間まとめ) について報告した。



第2日目

1) セッション3 : Bioethical Polices and Bioethical Law

(座長 : Dr Jean Claude Ameisen (フランス))

・ Laura Palazzani (イタリア)

Bioethical pluralisms (生命倫理の多元論化) への対応

・ Nikolajs Zeps (オーストラリア)

Sex selection through pre-implantation genetic diagnoses

・ Joseph Mfutso Bengo (マラウイ)

途上国の教育と社会制度の遅れ。先進国がデータ搾取、パテントもとっていき。教育と社会制度構築には先進国のサポートが必要。

セッションのまとめとして、途上国の一部(マダガスカル、マラウイなど)からは倫理観を備えた国となるため先進国の協力が切実に訴えられた

2) セッション4 : Raising social awareness on bioethical issues

(座長 : Dr Aamir Mustafa Jafarey (パキスタン))

パネルディスカッション

・ Dr Anita L. Allen, ・ Chin Jing Jih, ・ Hugh Whittall, ・ Dr Meral Özgüç

明確な医療倫理ではなく、Bioethics をどのように捉え、教育し社会へ伝えていくか。Bioethics の領域はかなり広く、Bioethics 教育の目的が先進国と発展途上国で異なる。発展途上国では、国民の生命、国の存続に関わる問題となる。

3) Regional Meetings

6つのWHO-based regionsに分かれ各地域で議論し次回グローバルサミットの課題となる項目を抽出

Africa, the Americas, South-East Asia, Europe, the Eastern
Mediterranea, and the Western Pacific (日本)

- ・ 新型ウイルス感染症の対応(感染者の対応は国境がない)
- ・ バイオバンキング(個人情報、遺伝子情報、データの国際間の取扱い)
- ・ 新しいバイオテクノロジー(幹細胞治療、ゲノム編集技術など)
- ・ 自然災害への対応
- ・ Bioethics の教育
- ・ 臓器売買

今後：

the Western Pacific では、2年に一度、Regional Meetings を開催予定
2017年10月23-25日（韓国）

4) 次回開催地

セネガル 2018年予定

会場の様子

